

## 奈良坂源一郎関係史料目録（追補）

### Catalogue of NARASAKA Gen'ichiro's Collection, with explanatory notes: a supplement

島岡 眞 (SHIMAOKA Makoto)

〒467-0873 名古屋市瑞穂区竹田町 2-6-N603

#### Abstract

Gen'ichiro Narasaka's collection of Nagoya University Museum received additional materials from his grandson in fall 2011, just before the opening of the special display, titled *Gen'ichiro Narasaka's Chugyo-Zufu: Museum of the pioneering anatomist*. The new materials consist of nineteen pieces, including the name list of attendants at the thank-you party for Gen'ichiro Narasaka, some illustrations, graduation albums, and a scroll of calligraphy. This report lists these materials, among which photographs, a scroll of calligraphy, and some notebooks are described in details as they illustrate new aspects of Gen'ichiro Narasaka.

#### はじめに

昨秋、12月からの奈良坂展「虫魚図譜 解剖学創始者のミュージアム」を前にして、奈良坂家から追加の資料提供があった。謝恩会人名録や戯画の下絵、卒業アルバムや掛軸等、19点の品々である。何れもこれまで受入れ、整理終了した資料群の一部であり、今回「奈良坂源一郎関係史料目録」の追補として報告させて頂くことにし、巻末に付記した。

併せて、この中から写真、掛軸、『備忘録』の3点にしぼり、これまでの報告で触れられなかった部分を追加説明したいと思う。

#### 1. 写真に見る医学校・医専群像

今回の追加資料の中に医学校・医学専門学校の写真・アルバムが2点含まれている。これまでアルバムはもとより、それ以外の多くの奈良坂家からの提供資料によって、医学部や名古屋大学の歴史写真が構成されてきた。ここでは写真・アルバムにしぼり、これまでの目録史料を再整理するとともに、医学部史料室及び大学文書資料室の所蔵をも併せ、教員ばかりでなく卒業生や留学生等の群像を年代的にまとめてみることにする。

##### (1) 明治11年冬

[公立医学校入学記念] (医学部史料室)

教師；新美，莊司，後藤，田野，浅山，石川，柘植，学生；増田逸郎等 17名

##### (2) 明治1□年

[職員学生] (医学部史料室)

石井，田野，柘植，後藤，石川ほか 34名

##### (3) 明治16年

「校長後藤新平氏送別記念撮影（職員学生一同）」(資料番号 Ln06 - 126)

- 於・西本願寺，旧校長，ローレツ他教師 16 名別紙記載（奈良坂含む）  
印刷物
- (4) 明治 19 年？  
[医学校教員]（資料番号 Ln06 - 030）  
場所，氏名記載なし（奈良坂，□，熊谷，□，□，龍浪，小倉，藤本？，三浦？，□，志水，川原）
- (5) 明治 20 年 3 月  
「浅山義六先生（解剖）送別記念」（医学部史料室）  
氏名なし（35 人）
- (6) 明治 21 年 3 月上旬  
「6 期生親睦ノ為メ写真」（医学部史料室）  
久野慶二等 8 名
- (7) 明治 21 年 6 月 1 日  
「フロックコート姿の卒業生」（医学部史料室）  
13 名，名前は板津，高橋のみ記載
- (8) 明治 25 年  
「愛知医学校卒業写真」（資料番号 Ln08 - 128）  
教師 17 名表，生徒・吉村ら 18 名は別紙
- (9) 明治 25 年 9 月 25 日？  
[ヒルシュベルグ（伯林大）を囲んで]（医学史料室）  
奈良坂等 30 名，17 人名前付記
- (10) 明治 28・29 年  
「卒業記念撮影」（医学部史料室）  
写真下に片桐亮等名前付記 40 名
- (11) 明治 33 年  
「愛知医学校卒業写真」（資料番号 Ln06 - 129）  
写真下に教師名，裏に筒井ら生徒 19 名
- (12) 明治 36 年？  
[卒業写真？]（資料番号 Ln06 - 193）  
奈良坂源（源一郎甥）のみ指示
- (13) 明治 37 年？  
[日露戦役出征軍医記念写真]（資料番号 Ln06 - 033）  
名前なし，校長ほか職員，軍医 49 名
- (14) 明治 30 年代  
「記念写真」（資料番号 Ln06 - 134）  
教師；清水？，石森，奈良坂，熊谷，小川，岡田  
生徒 8 名不詳
- (15) 明治 40 年 5 月  
「愛知県立医学専門学校第 8 期生決別記念」（資料番号 Ln06 - 130）  
大判（273×415），裏に岩田良一等 49 人の写真名簿
- (16) 明治 41 年

- 「卒業生写真 愛知医学専門学校明治 41 年 5 月」[帖] (資料番号 Ln06 - 192)  
「萬志守常」の熊谷校長巻頭題字，次紙に奈良坂の和歌  
教員，石田寛一等学生写真氏名
- (17) 明治 42 年  
「熊谷幸之輔氏洋行前」(医学史料室)  
安間等 8 名，於・雪月花
- (18) 明治 43 年  
[明治 43 年卒業アルバム] (医学部史料室)  
巻頭「医聖ヒッポクラテス之象」  
写真に氏名とも記載，巻末に飯田薫等学生 52 人住所  
奈良坂は組織学実習室写真  
作製；水谷鏡写真場 (浪越公園内)
- (19) 明治 44 年  
「愛知医学専門学校第 35 [33] 回卒業生記念写真帳」(大学文書資料室)  
巻頭に奈良坂の「見病不見人」の題字  
写真，同窓生名岩田穰等記載，巻末に住所  
奈良坂は組織学，胎生学講義写真
- (20) 明治 44 年？  
[ ] (資料番号 Ln06 - 137)  
卒・丹重雄等 1 - 4 年生を 35 名 (別紙)
- (21) 大正 2 年  
「愛知医学専門学校第 35 回卒業生記念写真帖」(大学文書資料室)  
写真，有吉誓等名前とも記載，巻末に住所  
制作；中村写真館
- (22) 大正 3 年  
「愛知医学専門学校第 36 回卒業生記念写真帖」(医学部史料室)  
巻頭「読得一尺…」の熊谷校長題字  
写真，名前とも記載，巻末に岩野四郎等卒業生名住所  
奈良坂は組織学実習の写真  
制作；岩田清写真館
- (23) 大正 3 年 12 月  
「民国留学生との花甲祝賀会」(資料番号 Ln06 - 135)  
奈良坂還暦祝賀，於・偕楽亭  
周復培等 26 名記載
- (24) 大正 4 年  
「愛知医学専門学校第 37 回卒業生記念写真帖」(医学部史料室)  
写真，名前とも記載，巻末に稲見英雄等卒業生名住所  
制作；加藤写真館
- (25) 大正 6 年 4 月  
「愛知医学専門学校卒業生記念写真帖」(大学文書資料室)

「種徳施恵」の山崎校長巻頭題字

写真，泉徳水等名前とも記載

加藤俊幸謹製

(26) 大正7年

〔愛知医学専門学校卒業生記念写真帖〕（医学部史料室）

「琴心創膽」の山崎校長巻頭題字

写真，石川連太郎等の名前とも記載

加藤俊幸謹製

(27) 大正8年

〔愛知医学専門学校卒業生記念写真帖〕（医学部史料室）

「切石多向…」の山崎校長巻頭題字

写真，岩本軍司等の名前とも記載

加藤俊幸謹製

(28) 大正10年4月

〔愛知医学専門学校卒業生記念写真帖〕（大学文書資料室）

「大徳日生」の山崎校長巻頭題字

写真，石川功一等名前とも記載

加藤俊幸謹製

(29) 大正11年3月

〔愛知医学専門学校卒業生記念写真帖〕（大学文書資料室）

「極黎之…」の山崎校長巻頭題字

写真，伊藤真誠等名前とも記載

加藤俊幸謹製

## 2. 儒者の見た奈良坂

### 1) 「還暦寿序」に見る奈良坂

今回の資料のなかに、奈良坂の生涯を最も簡潔に纏めている漢文の還暦寿序の掛軸が含まれていた（資料番号 Ln08 - 361）。先の「奈良坂展」では早速、展示・解説をさせて頂いたものである。これは188×68cm、軸装箱入り、装丁した後大事に扱われたらしく破損、大きなシミも見当たらない。560字余の長文であり全文を提示できないため、以下に要約した訳文を掲載させて頂くことにする。

「奈良坂松洲先生還暦寿序

峻嶺味岡正義撰

明治四二年、大田百畝宅での初対面の経緯と印象を述べ、後日大田から奈良坂の今日に至るを聞く。明治十四年愛知に奉職以来、愛知医学校・医専の隆盛・艱難は熊谷校長と奈良坂に負う。専門の解剖学の術技は精妙、多数の著作の中でも『胎生学』は前人未見を説く。趣味は和歌、尺八、絵画、盆栽、骨董等枚挙に遑ない。先生は瀟洒淡白、見識は高卓、厚生利用は西洋の学に、道德気節は東洋の教えに基づく。教育は厳しいが生徒は心服敬愛し、狎れず遠ざけず。浪越教育博物館を私財投打ち立上げ、後徳川侯に献ずる。人倫の篤きは親姻・旧知に厚く、我処に遺さない。先生の猶子弟として伝記を書きたく思うと。大正三年、還暦の寿宴は得月楼で門下生百余名、医界にかつて見ない盛会だった。ここに親友大田の年来の恩に報いんが為、代りに先生の永久の長寿を拙陋で賀する。」

この賀寿を依頼する大田百畝は本名寛，生没は不明だが奈良坂の最も気を許した親友である。後述の和歌の中でも詠われているが，短冊にも漢詩，和歌と多くを残している。書家，教育家として医学専門学校の嘱託教員も歴任している。

賀寿の撰者・味岡正義は号・峻嶺，1853～1920年の人。尾張藩士，漢学・国学を増田紫陽，大口周二等に師事，後に愛知師範学校，愛知医学専門学校等での教育に従事している。著書には『古文孝経講義』等，大田との共著に『簡易日本文典』『皇国文典』等がある。

## 2) 「雀巢園虫譜 序」での奈良坂

奈良坂と味岡正義との出会いは還暦を前にしたところであるが，若い頃から儒学者との交流の跡が見える。幕末尾張本草学の代表の一つである吉田高德の『雀巢庵虫譜』の写本を奈良坂が明治20年頃制作している。これを『雀巢園虫譜』とし，明治21年その序文を高名な儒者・一色重熙が漢文で記している（奈良坂，1888）。その中で一色は若い，近代西洋医学を学んできた奈良坂が本草学を継承しようとしていることへの期待を，以前筆者は次のように報告したことがある（島岡，2009）。

医薬神・神農氏の後，医薬が分かれば医師が薬品を知らなくなったなか「比々相接，不<sub>レ</sub>如<sub>二</sub>奈良坂氏兼<sub>一</sub>知<sub>二</sub>医薬<sub>一</sub>也，此與<sub>二</sub>神農氏<sub>一</sub>，隔<sub>レ</sub>地距<sub>レ</sub>年，相友者也」と奈良坂を医薬の始祖神農氏になぞらえ，「奈良坂氏，随<sub>レ</sub>世变化，見<sub>レ</sub>機活用，非<sub>レ</sub>守<sub>二</sub>旧株<sub>一</sub>者<sub>レ</sub>也，以<sub>二</sub>洋法<sub>一</sub>，用<sub>二</sub>之皇国<sub>一</sub>，以<sub>二</sub>古法<sub>一</sub>，施<sub>二</sub>之今日<sub>一</sub>」として「此書則其一端也」と讃える。この書を世人は昆虫の本で草木や薬品の書ではないと云うかも知れないが，薬にならないものはないと述べ，最後を「且大医，能治<sub>二</sub>国家之政病<sub>一</sub>，其治<sub>レ</sub>之，用<sub>二</sub>仁義<sub>一</sub>，是亦薬也，子欲<sub>二</sub>一匙治<sub>二</sub>政病<sub>一</sub>乎」と国家や人倫を治す「大医」への期待を述べている。

ところで，この序文を寄せた一色重熙とはどのような人物なのか。没年が明治25年で70歳と言われていることから生まれは1823年か。『名古屋市史・人物編』によると，慶応元年には藩校・明倫堂主事，維新後は仮副区長を歴任し，愛知県師範学校の教官等の経歴を見る。また詩文をよくし，『続日本史』の刊行，「立志蒙求」「姑射百詠」等の著書が知られている（名古屋市，1915）。

## 3. 奈良坂と和歌

### 1) 『備忘録』に見る和歌書

この『備忘録』（資料番号 Ln03 - 045，図1 備忘録）は和書籍の簡明な目録である。巻頭に「奈良坂蔵書」の朱印が押されているが，これが奈良坂の所蔵目録を意味するとは限らず，学習や購入を予定していた備忘のための目録であるかは必ずしも定かでない。

これは部立てや頁付けがされているわけではないが，内容を見ると4部で構成されていることが分かる。最初は和歌書等を中心にした古典籍406点，次いで明治中期刊行の洋装本154点，その後に再び古典籍が主に地誌等のものが33点，漢籍も含めた随筆など116点という順で記載されている。

中心となる和歌書にはどのようなものが記載されているかを見てみる。『古今集』『新古今集』などの八代集や『新千載集』『風雅集』などの勅撰集が13点見えるほか，『後鳥羽院御集』『順徳院御集』などの皇室所縁の歌集も収録されている。『万葉集』に関しては冒頭の『万葉集傍注』を始め8種が見えるが，全体からすると必ずしも多いとはいえない。「百人一首」に関するものは『百人一首拾穂抄』（北村季吟）を始め書名から伺えるのが同様8点ある。私歌集は『柿本人丸集』を始めとして，『定家近來秀歌』など著明な歌集が多く，かなりの比率をしめているようである。『伊勢物語』『大和物語』の歌物語，『十六夜日記』や『富士紀行』など和歌，名所を訪ねるなどの紀行作品も多く見える。『清輔袋草紙』や『和歌八重垣』などの歌学，歌論についての著作も多い。この『備忘録』に記載されて



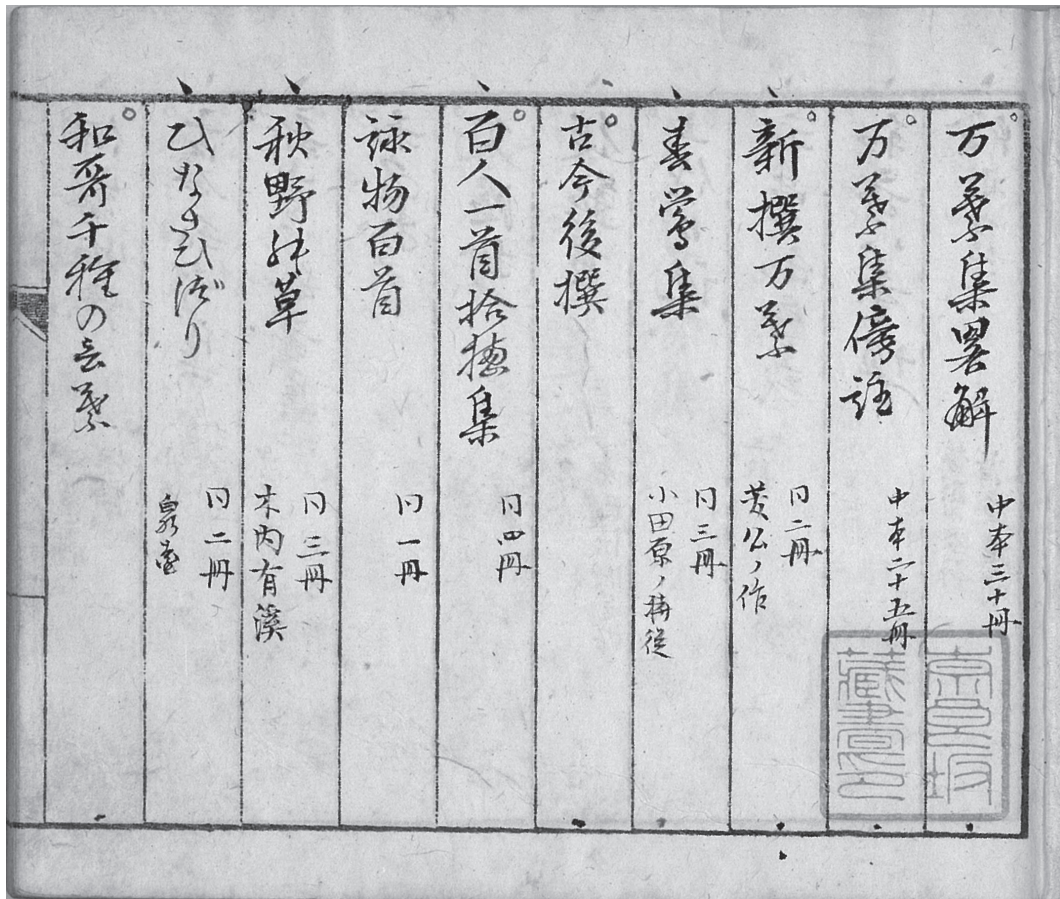


図1. 備忘録

いる古典籍のなかで、和歌書をどのように限定するかは筆者の任を越えることであるが、概観的に見て400点中その過半が和歌書といえそうである。

ところで、奈良坂の伝記『完本解剖学者奈良坂源一郎伝』には和歌について以下のような記載がある。この伝記をまとめていた当時唯一所在が分かっていた『慢吟和歌集冬の部』（資料番号 Ln03 - 028）を解説するなかで、仙台において「こすもす短歌会」を主宰されている土井健吾氏が以下の評を述べられている。「作者は相当深く古典に通じてその上に立ってこの道に於てもその練磨の努力を重ねた人だと言うことである。おそらく作者は古今集を常に座右に置かれてそれを何度も読み、作歌に励んだのではなかろうか」（奈良坂，2004，p155）。

## 2) 『晚翠軒歌集』

奈良坂は絵画の落款に、郷里・松島にちなみ〈松洲〉の号をよく使用しているが、自家用野紙には〈晚翠軒〉の判心が入っている。したがって、1点の作品には〈松洲〉の落款が、それらをまとめたのが〈晚翠軒〉作品集といえる。その典型例が『虫魚図譜』として残されている。

この歌集は〈晚翠軒〉銘ではなく普通の野紙に、奈良坂ならではの几帳面な変体仮名の筆跡でまとめられたものである（図2 晚翠軒歌集）。作成がいつであるかは定かでないが、先に述べた歌集『慢吟和歌集』に掲載の歌も採録されていることや、この歌集中に「古い」を歌ったものが多いことから、奈良坂の晩年に纏められたものではないかと思われる。

これは史料目録第2回（2007年）において、各分冊毎に簡単なリスト（資料番号 Ln03 - 011 ~

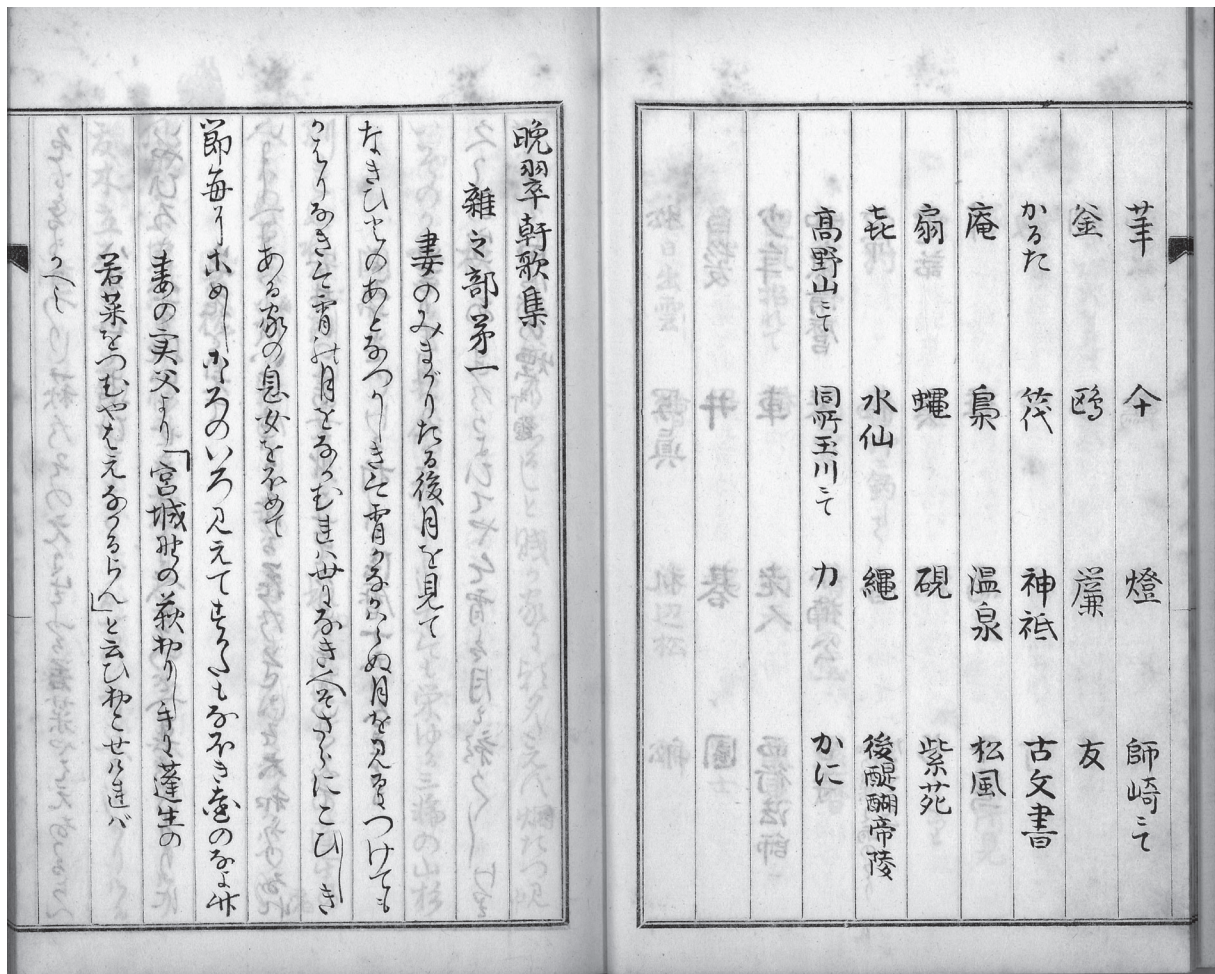


図2. 晩翠軒歌集

026) にしているが、この機会に改めて概略を見ることにする。この歌集は全16冊、春ノ部3分冊1,885首、夏ノ部2分冊1,117首、秋ノ部2分冊1,343首、冬ノ部2分冊1,011首、雑ノ部7分冊4,803首、全部で10,159首に及ぶ大部な歌集である。前述の土井健吾氏が『慢吟和歌集冬の部』の作品の一部を詳しく解説されており、和歌に疎い筆者が論ずるのはおこがましいが、雑の部から興味を惹いた歌を幾つか紹介させて頂くことにする。

1万首を超す歌を残した奈良坂だが、彼にとって和歌はいかなるものだったのか。雑の5〈我が詠歌の拙きに〉として、「若竹の杖もあれども老いのあし すすむにおそきしきしまの道」と歌い、和歌の学びへの道が遅かったことを「敷島の道ある事をしりながら ふみみざりしぞいまはくやしき」と嘆く。なお、四季の歌以外を雑として4,800首にまとめているが、その中には彼の本業である医学や解剖学、また心血を注いだ教育博物館についての歌は見出せない。代りに学問や教育のあり方を歌ったものとして、雑の2、〈教師〉に「鋤とりて土かふ庭のをしへ草 葉末の露も玉とてらせん」、雑の4、〈洋学〉に「からまなびくはしかりとも国ふりに うときふしあり夢な溺れそ」との姿勢を見せている。彼の教育博物館に対するような社会教育への取り組みは同時に社会事業への関心でもあった。雑の3、〈廃兵〉に「国のためとはいひながら松葉杖 つく身となりしあはれものゝふ」、中でも盲人への関心は強く、全部で8首が記されている。雑の4、〈盲人〉に「ひとすぢの杖をたつきの目しひだに ゆくてまどはぬ事のけなげさ」、雑の7、〈訓盲院〉に「ひらけゆく御代のめぐみに目しひすら まなびの道ぞふむがめでたさ」。これらの関心への実践結果は、大正2年の名古屋盲人会から



の感謝状（資料番号 Ln01 - 132）に見ることができる。

この雑ノ部のかかなりの部分は、羈旅といわれる旅や風物に関するものである。奈良坂の旅行趣味については、収集絵葉書や旅館荷札などからこの目録報告で何度か述べて来た。雑の2、〈旅〉に「草まくら旅寝の床に露おきて ぬれにぞぬるゝわがたもとかな」、雑の7、〈夜汽車〉に「小夜ふけてかたらふひとのこえたえぬ 汽車はいづれの里をゆくらん」、旅や故郷への途中で遭遇したと思われる災害への歌。雑の1、〈我が故郷にては干天久しく打ちつづきけりといふに〉として「天つ神などてかあめををしむらん よし水無月と名にはいふとも」、雑の7、〈地震頻々〉に「かりいほのかりねわびしき夢をさへ ゆりおとろかすないのわりなさ」。

また一方、身の周りや家族、老いに対する穏やかな日常を歌うものも数多い。雑の1、〈かに〉に「磯はたの道ゆくひとにさき立ちて よこぎるかにの脚のはやさよ」、雑の7、〈ひきがえる〉に「ゆふまぐれにはにいで来るひきがえる 心しづかに蚊をやあされる」、在職中の歌であろうか雑の3、〈晚酌〉に「けふのわざおへてかへればわざも子が ゆふげそふる酒ぞうれしき」、雑の4、〈老〉に「老ぬればこころ矢たけにはやれども 弓と曲がれる身をいかにせん」、雑の5、〈子守〉に「中なかにこころつかひぞただならぬ おのが孫も老ひとの身は」と気苦労をなげきつつも、雑の1、〈老人〉の「孫の手をひきつゝ春の野に出でて 老も若葉をつむぞたのしき」という長閑な姿を思い浮かばせてくれる。

### 3) 和歌の師友たち

奈良坂が就いた和歌の師やグループについて今のところ定かでないが、遺された資料に「長谷部親弘先生」の草稿があるところから（資料番号 Ln03 - 033）、大島為足・長谷部親弘の系列に属したのかもしれない（豊田市、1987）。その他、遺された多くの和歌短冊等を見ることにより、奈良坂の後期（明治後半以降）における名古屋での和歌の動きを知る一端になればと思う。

先の『晚翠軒歌集』に唯一個人名で詠われている親友・太田寛を雑の1で、〈我が友結べる太田大人俄にみまかりすれば〉「きのふまでかたりしひとは世をかへぬ たまのをばかりはかなきはなし」の追悼の歌ほかがある。短冊の中で見ると、当時の歌人として知られた人に、掛布弓月の「よへふりしあられしらゝゝのこりけり あさきたさむき竹のしたみち」（資料番号 Ln08 - 037）、〈朝千鳥〉「きえのこるみあかしさえていつくしま 朝みつ汐に千どりなくなり」（同 Ln08 - 062）。後に（昭和14年）『御歌所の研究』を執筆刊行することになる恒川平一は〈談古〉「清きくにふるきにうつる物がたり 神代に入りて夜はあけにけり」（同 Ln08 - 073）他がある。この時期の歌壇史を詳細に扱った文献（木下、2006）には見当たらない人たちだが、蟹江慶次郎、河合良雄、瀬木せき子、村上竜之介、福沢稔、山本寿等の名が複数の短冊を残している。

この短冊資料で目を引くのが、皇室関係のものである。尾張出身で明治40年には御歌所主事をも歴任する阪正臣の筆による、明治天皇、昭憲皇太后御製・拝刷の袋入りの短冊が30点ある（同 Ln08 - 083 ~ 112）。明治天皇と和歌の関係はよく知られたところで、歌会始の公募、詠進歌や御製の新聞発表など、明治21年には再興の形で「御歌所」を宮内省に創設し、従来からの和歌の流れを皇室の権威の下に、〈御歌所派〉と称される和歌の流派として、新たな時代の国民意識の形成が企られる。この〈旧派和歌〉に対して、与謝野鉄幹や正岡子規等の和歌革新運動が進められた明治30年代を経過したこの時代、奈良坂の周辺においては〈御歌所派〉の影響が強かったようである。



### おわりに

先回の報告でも記したように、毎回多くの方々のご指導、ご助言によってこの報告は纏めることができました。今回も文学部の塩村耕先生のご助言に負うところが大きく、改めて感謝いたします。

先の奈良坂展では担当の門脇誠二先生によって、奈良坂の解剖図や生物図の立体的なビジュアル化が企られ新たな奈良坂像を見ることができ、史料整理に関わった者として感謝に堪えない限りです。またこの展示会の閉幕を期して、これまで医学部所蔵の石膏製奈良坂胸像がブロンズ化され、博物館に常置されることになりました（図3 奈良坂像）。これは奈良坂史料の大きな番外編として報告させて頂くことを、関係の博物館及び大学関係者各位に改めて御礼申し上げる次第です。

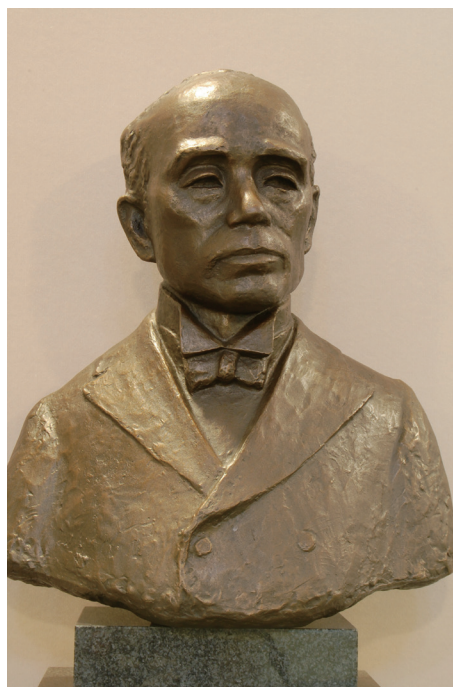


図3. 奈良坂像

### 参考文献

- 木下信三（2006）名古屋近代文学史私考，自費出版  
島岡 眞（2009）「虫譜」に見る尾張本草学—その継承と展開—（伊藤圭介日記 第15集所収）  
豊田市教育委員会編（1987）豊田市史 人物編  
名古屋市役所編（1915）名古屋市史 人物編  
奈良坂源一郎写（1888）雀巢園虫譜 混合之部、蜂蟻之部、蜻蛉之部 全6冊（杏雨書屋蔵）  
奈良坂源次郎（2004）完本解剖学者奈良坂源一郎伝，自費出版

（2012年10月15日受付）

[付表] 追補資料目録

	資料番号	標目	年月	形態等	注記
1	Ln02-040	賀寿記念 [帖]	大正 13 年 4 月		古稀記念祝賀会帖、小計 317 名、総計 417 名の名簿
2	Ln02-041	奈良阪先生謝恩画会人名録	大正 15 年 4 月		
3	Ln03-045	備忘録		「奈良坂蔵書印」と巻頭にあり	国文学の古書を主に、明治期の刊行物も含む 700 点余の書籍リスト。
4	Ln03-046	戯画下絵 骸骨 1			
5	Ln03-047	戯画下絵 骸骨 2			
6	Ln03-048	戯画下絵 骸骨 3			
7	Ln03-049	戯画下絵 骸骨 4			
8	Ln03-050	戯画下絵 骸骨 5			
9	Ln03-051	戯画下絵 骸骨 6			
10	Ln03-052	奈良坂文子日記一節		2 枚	中尊寺での事故安否
11	Ln04-342	絵葉書・奉天北陵	12 月 29 日椎野 弼	礼状	
12	Ln06-192	卒業生写真 愛知医学専門学校明治四十壹年五月		35 帖、教員、卒業生全写真名	熊谷書、奈良坂歌、病院・校舎全景あり
13	Ln06-193	卒業写真カ	明治 36 カ	1 枚	裏に奈良坂源の指示、明治 36 卒の時カ
14	Ln06-194	家族写真 郷里にて			先妻、母等と
15	Ln07-330	歌御会始	明治 43 -	[新聞切抜帳]	明治 43 年から昭和 7 年までの「歌御会始」についての新聞切抜、大正 12 年以降は数点で未貼付け
16	Ln07-331	[新聞切抜帳]	明治 40 -		明治 40 - 44 年の「時事」「大坂朝日」等の切抜、主に科学的記事
17	Ln07-332	日露海戦記事集		[新聞切抜帳]	
18	Ln07-333	スクラップブック		名古屋通信社、明治 37 年製、200 頁	箕作佳吉「鳥の舞」以下、人工胚胎発育法等の記事、年月、新聞名は未記入
19	Ln08-361	奈良阪松洲先生還暦寿序		188×68cm、軸装箱入り	大田寛の依頼による味岡正義の漢文賀寿